

第62回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表	1 頁
計算書類の個別注記表	10 頁

上記の事項につきましては、法令および当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://ir.itfor.co.jp/>) に掲載することにより、株主の皆様に提供しております。

株式会社アイティフォー

連 結 注 記 表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等)

1. 連結の範囲に関する事項

・連結子会社の数	4社
連結子会社の名称	株式会社アイ・シー・アール
	株式会社シー・ヴィ・シー
	株式会社イーブ
	株式会社グラス・ルーツ

株式会社シー・ヴィ・シーは、株式会社アイ・シー・アールの100%子会社であります。

株式会社スナッピー・コミュニケーションズは、当連結会計年度に株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

・持分法を適用した関連会社の数	1社
会社の名称	株式会社アイセル

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算期の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

満期保有目的の債券 債却原価法（定額法）によっております。

その他有価証券

・時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

市場価格のない株式等については、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、相当の減額をなし、評価差額は当期の損失として処理します。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる株式の評価は、期末日の純資産価額に基づいて減損判定を行いますが、純資産価額以外を実質価値として採用すべき合理的な理由が認められ、かつその金額を合理的に算定可能な場合は、当該価額を純資産価額に代えて減損判定を行っております。これらの純資産価額以外には、資産等の時価評価に基づく評価差額や将来の超過収益力等が含まれます。

(口) たな卸資産
商品・貯蔵品

移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

仕掛品

個別法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

(ハ) デリバティブ取引

時価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産
(リース資産を除く)

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備・構築物については定額法）によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

(口) 無形固定資産
市場販売目的のソフトウェア

見込販売期間（3年以内）における見込販売数量に基づく償却額と販売可能な残存有効期間に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を計上しております。
社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

自社利用目的のソフトウェア

その他

定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

(ロ) 賞与引当金

(ハ) 役員退職慰労引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づき当連結会計年度末における要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る負債の計上基準

- (イ) 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- (ロ) 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- (ハ) 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

(イ) ソフトウェアの請負開発契約に係る収益の認識基準

- i. 当連結会計年度末まで 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）に
の進捗部分について成 よっておりま
る果の確実性が認められ
るもの

ii. その他のもの 工事完成基準（検収基準）によっております。

(ロ) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ハ) ヘッジ方針

(二) ヘッジ有効性評価の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を採用しております。

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建買掛金
	外貨建未払金
	外貨建予定取引

当社の内部規程である「為替リスク管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の評価を行っております。

なお、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同じであり、ヘッジに高い有効性があるとみなされるため、ヘッジの有効性の判定を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、発生年度より、その効果の及ぶ年数を実質的判断により見積り、その見積年数に基づく定額法により償却しております。

(8) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(9) 表示方法の変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準（企業会計基準第31号 2020年3月31日）」を当連結会計年度より適用し、（会計上の見積りに関する注記）を開示しております。

(10) 会計上の見積りに関する注記

(イ) 会計上の見積りを示す項目

株式会社アイ・シー・アール及びその子会社である株式会社シー・ヴィ・シーの買収・出資により発生したのれん

(ロ) 連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

連結貸借対照表（資産の部）

のれん 96,687千円

連結損益計算書の販売費及び一般管理費に含まれる

のれん償却費 29,750千円

(ハ) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

当社はのれんの減損の兆候がある場合には、その都度、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を上回っているかどうかの回収可能性テストを実施していますが、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を上回っていることから、減損処理を行っておりません。なお将来キャッシュ・フローは経営者により承認された中期経営計画等を基礎として、見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動によって影響を受ける可能性があり、翌連結会計年度以降の連結計算書類において、のれんの金額に重要な影響を与える可能性があります。

(連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産の減価償却累計額

2,026,932千円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	29,430,000株	－株	－株	29,430,000株

2. 自己株式の種類及び数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	2,147,359株	45株	156,100株	1,991,304株

(注) 増加45株は単元未満株式買取であり、減少156,100株はストックオプションの権利行使によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年5月8日 取締役会	普通株式	627,788千円	23円00銭	2020年3月31日	2020年6月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2021年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	631,377千円	23円00銭	2021年3月31日	2021年6月21日

4. 当連結会計年度末における新株予約権に関する事項

・新株予約権の目的となる株式の種類及び数

2017年9月13日開催の取締役会決議によるストックオプション
普通株式 626,600株

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金及び債券での運用を原則としており、債券での運用にあたっては、格付機関による格付を参考に安全性が高いと判断したもののみを対象としています。

また、資金調達においては、銀行等からの借入によらず、運転資金及び投資資金ともに自己資金で賄うことを基本としています。なお、一時的な資金需要の増加に備えるため、銀行との間でコミットメントライン契約を結んでいます。

デリバティブ取引は、外貨建取引の為替変動リスクを回避するために為替予約を行い、投機的な取引は行わない方針です。

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクにつきましては、与信管理規程に基づき、顧客ごとの残高管理、期日管理等を行うとともに、定期的に顧客の信用状況を調査しています。

有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び取引先企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、原則として1年以内の支払期日です。営業債務は、流動性リスクに晒されていますが、毎月資金繰り計画を作成し管理しています。また、その一部には、商品の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（先物為替予約）を利用してヘッジしています。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替取引です。その取引については、業務執行委員会で承認を得た取引方針や社内規程に従い、経理部で取引を行い、取引の都度管理本部長に取引内容の報告を行うとともに、月次の取引実績及び取引残高について業務執行委員会に報告を行っております。なお、ヘッジ会計に関する、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の（連結計算書類作成のための基本となる重要な事項）に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額（※）	時価（※）	差額
(1) 現金及び預金	2,972,304	2,972,304	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,702,139	2,702,139	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的有価証券	7,699,783	7,699,760	△23
その他有価証券	1,859,576	1,859,576	—
(4) 買掛金	(1,681,861)	(1,681,861)	—
(5) デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されているもの	138	138	—

(※) 負債で計上されているものについては、() で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、受取手形及び売掛金、並びに買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する売買統計参考値、信託受益権については取引金融機関から提示された価格によっております。

(3) デリバティブ取引

振当処理の対象となる為替予約に関する時価は、ヘッジ対象となる買掛金の時価に含めて記載しております。

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額は、次のとおりであります。

(単位：千円)

ヘッジ会計 の 方 法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契 約 額 等		時 価	当 該 時 価 の 算 定 方 法
			うち 1 年超			
為替予約等 の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建予定取引	2,074	—	138	先物為替相場に よっている。
合計			2,074	—	138	—

(注) 2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額93,110千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(2) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(1 株当たり情報に関する注記)

1. 1 株当たり純資産額	512円48銭
2. 1 株当たり当期純利益	61円56銭

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

研究開発費の総額 55,221千円

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）によっております。

子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

市場価格のない株式等については、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、相当の減額をなし、評価差額は当期の損失として処理します。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる株式の評価は、期末日の純資産価額に基づいて減損判定を行いますが、純資産価額以外を実質価値として採用すべき合理的な理由が認められ、かつその金額を合理的に算定可能な場合は、当該価額を純資産価額に代えて減損判定を行っております。これらの純資産価額以外には、資産等の時価評価に基づく評価差額や将来の超過収益力等が含まれます。

(2) たな卸資産

商品・貯蔵品

移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

仕掛品

個別法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

(3) デリバティブ取引

時価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

(リース資産を除く)

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備・構築物については定額法）によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

(2) 無形固定資産

市場販売目的のソフトウェア

見込販売期間（3年以内）における見込販売数量に基づく償却額と販売可能な残存有効期間に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を計上しております。

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

自社利用目的のソフトウェア

その他

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

(イ) 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

(ロ) 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

4. 重要な収益及び費用の計上基準

(1) ソフトウェアの請負開発契約に係る収益の認識基準

(イ) 当事業年度末までの進捗部分 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）について成果の確実性が認められており、
られるもの

(ロ) その他のもの 工事完成基準（検収基準）によっております。

(2) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を採用しております。

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建買掛金
	外貨建未払金
	外貨建予定取引

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

当社の内部規程である「為替リスク管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。

(3) ヘッジ方針

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の評価を行っております。

なお、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同じであり、ヘッジに高い有効性があるとみなされるため、ヘッジの有効性の判定を省略しております。

6. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

8. 表示方法の変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準（企業会計基準第31号 2020年3月31日）」を当連結会計年度より適用し、（会計上の見積りに関する注記）を開示しております。

9. 会計上の見積りに関する注記

(1) 会計上の見積りを示す項目

関係会社株式（株式会社アイ・シー・アール）

(2) 当事業年度の計算書類に計上した金額

貸借対照表（資産の部）

関係会社株式 685,918千円

(3) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

当該関係会社株式は市場価格のない株式のため、実質価額と帳簿価額を比較検討することにより減損判定を行っていますが、実質価額は帳簿価額から著しく下落していないため減損処理を行っておりません。実質価額の算定にあたっては、純資産に超過収益力を加味しております。超過収益力は経営者により承認された中期経営計画等を基礎として、見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動等の結果によって、財政状態の悪化や超過収益力の毀損が生じた場合には、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	1,881,146千円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	
短期金銭債権	34,267千円
長期金銭債権	19,000千円
短期金銭債務	108,694千円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

売上高	63,319千円
売上原価	711,423千円
販売費及び一般管理費	11,255千円
営業取引以外の取引高	32,523千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式の種類及び数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	2,134,864株	45株	156,100株	1,978,809株

(注) 増加45株は単元未満株式買取であり、減少156,100株はストックオプションの権利行使によるものであります。

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産の発生の主な原因

未払事業税	31,073千円
会員権評価損	10,938千円
事業用土地評価損	84,628千円
賞与引当金	117,313千円
退職給付引当金	61,297千円
長期未払金	10,957千円
投資有価証券評価損	52,318千円
関係会社株式評価損	37,009千円
減価償却超過額	14,737千円
その他	94,737千円
小計	515,011千円
評価性引当額	△173,160千円
繰延税金資産合計	341,851千円

2. 繰延税金負債の発生の主な原因

その他有価証券評価差額金	△211,189千円
繰延ヘッジ損益	△42千円
繰延税金負債合計	△211,232千円
繰延税金資産純額	130,619千円

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	(株)スナッピー・コミュニケーションズ	所有 直接100.0%	役員の兼任 資金の援助 業務受委託	管理業務受託 (注1)	120千円	その他流動資産	—
				出向負担金 (注1)	5,865千円	未払金	—
				債権放棄 (注3)	19,000千円	関係会社長期貸付金	—
				利息の受取 (注2)	150千円	その他流動資産	—
	(株)グラス・ルーツ	所有 直接45.0%	役員の兼任 資金の援助 業務受委託	管理業務受託 (注1)	840千円	その他流動資产	—
				貸付金の回収 (注2)	1,000千円	関係会社長期 貸付金	15,000千円
				利息の受取 (注2)	251千円	その他流動資産	3千円
	(株)アイ・シー・アール	所有 直接100.0%	役員の兼任 資金の援助 売上先 業務受委託	売上 (注1)	59,016千円	売掛金	13,744千円
				出向負担金 (注1)		リース投資資産	15,385千円
				業務委託費 (注1)		未払金	18,583千円
				人材派遣 (注1)		未払金	4,208千円
				貸付金の回収 (注2)		関係会社長期 貸付金	4,000千円
				利息の受取 (注2)		その他流動資産	18千円
関連会社	(株)シー・ヴィ・シー	所有 間接100.0%	役員の兼任 売上先	売上 (注1)	182千円	売掛金	—
	(株)イープ	所有 直接100.0%	役員の兼任 売上先 外注先	売上 (注1)	2,445千円	売掛金	236千円
				外注 (注1)	207,561千円	買掛金	48,643千円
	(株)アイセル	所有 直接24.9% 被所有 直接0.2%	役員の兼任 売上先 外注先	売上 (注1)	1,675千円	売掛金	154千円
				外注 (注1)	274,741千円	買掛金	37,259千円

取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

- (注) 1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し、価格交渉の上で決定しております。
- 2. 資金の貸付の金利については、市場金利を勘案して決定しております。
- 3. 債権放棄については、取締役会決議をもって行ったものであります。
- 4. (株)スナッピー・コミュニケーションズは2020年9月29日付で株式譲渡を実施したため、関連当事者に該当しないこととなりました。取引金額は売却時までの取引高を記載しております。
また、議決権等の所有割合は同社が関連当事者に該当しなくなつた時点のものを記載しております。

2. 連結計算書類提出会社の役員

種類	会社等の名称 または氏名	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
役員	東川清	直接 (被所有) 1.33%	当取締役	新株予約権の 権利行使	12,840千円	—	—

(注) 2017年9月13日開催の取締役会決議に基づき、当社が付与した2017年度新株予約権の行使であります。

行使条件は、2017年9月13日開催の取締役会決議およびそれに基づき上記の者と契約した新株予約権割当契約書のとおりであります。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 503円57銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 59円12銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

- | | |
|----------|----------|
| 研究開発費の総額 | 48,746千円 |
|----------|----------|